

小離島における在宅ターミナルケアへの取り組み

—『家で死にたい』強い希望に寄り添って—

公益社団法人

長崎県看護協会

訪問看護ステーション福江

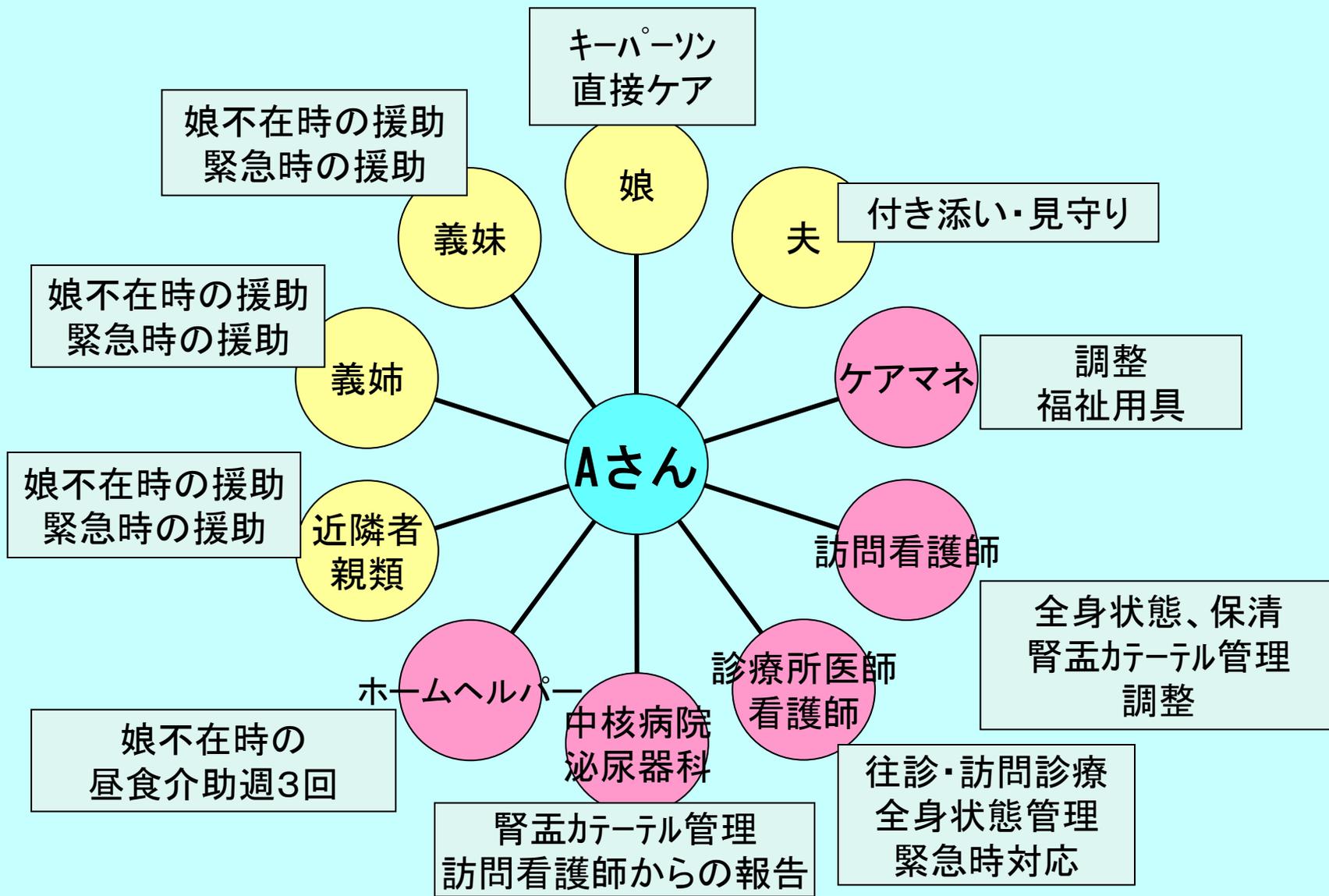
出口 久美子

患者紹介

- Aさん 女性 福江島の中核病院に入院中
- 診断名 膀胱がん(末期) 右腎瘻造設後
- 家族背景 夫と娘の3人暮らし
夫は歩行困難、強度の難聴
主介護者の娘は人工透析で福江島の
クリニックに週3回通院中
- 紹介者 ケアマネージャー
入院初期にAさん、娘さんと顔合わせ
在宅療養に向けてのカンファレンスを実施
- 在宅への思い Aさん：家で死にたい
娘：母の希望を叶えてあげたい

退院後の医療体制（病診連携）

- 腎盂カテーテル管理全般
- 中核病院
泌尿器科医
カテーテル等物品の供給
（往診はしない体制）
- 全身状態管理
緊急時往診・訪問診療
- H島診療所
（診療所医師の交代時期と重なり
隣の離島医師の協力もあり）



具体的支援内容

在宅看取りが実現できた要因

- ・本人の意思表示
- ・家族の思いと力
- ・疼痛コントロールができたこと。
- ・親類、近隣の協力、顔の見える関係
- ・医療、福祉の連携（病診、看看、看介）
- ・行政のサポート



小離島への訪問看護で取り組むべきこと

- 地域でのネットワーク作り、理解と協力
- 患者、家族とのコミュニケーション、介護者への情報提供、教育
- サービスの代替、創意工夫、柔軟な対応
- 行政の協力を得る
- 悪天候の段取りを決めておく
- 交通手段（公共交通機関がほとんど無い）
- 経済（金銭的余裕が無い方が多い）

母が望んだH島の我が家で看取れたことを
喜んでくれていると思います。母が亡くなったことの悲しみ、
もっとできることがあったのでは・・・という思いもありますが
約束が果たせたという充実感もあります。
(グリーンケア訪問での娘さんの言葉より。)

